会　　議　　録

第７回定例会

開会　令和８年７月１３日

教育委員会会議録

１　開　　会　　令和８年７月１３日　午前１０時

２　閉　　会　　令和８年７月１３日　午前１１時２９分

３　教育委員会出席者

教育長	中川　斉史
委　員	島　隆寛
委　員	横田　賢二
委　員	糸井　恵理
委　員	武田　國宏
委　員	横田　恵理子

４　教育長及び委員以外の出席者

副教育長	髙﨑　美穂
教育改革統括監	眞椙　秀也
教育次長	遠藤　岳哉
教育政策課ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ推進室長	近藤　久善
教育創生課長	青木　秀夫
教職員課長	金岡　由岐子
いじめ・不登校対策課長	福多　博史
教育政策課長	玉岡　あき子
教育政策課副課長	藤川　憲一郎

［開　会］
教育長　　定例会を開会する旨を告げる。

［会議録の承認］
教育長　　配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。
各委員　　異議なし。
教育長　　会議録を承認する旨を告げる。

［教育長報告］
副教育長　　６月定例県議会における質疑概要について報告する。

〈質　疑〉

特になし。

［議　事］
教育長　　議案第２３号、報告事項１及び報告事項２を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。
各委員　　異議なし。
教育長　　そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《協議事項１　県立学びの多様化学校の新設に伴う新設中学校の校名決定について》

教育長　　説明を求める。
いじめ・不登校対策課長　内容等を説明する。

〈質　疑〉

教育長：校名を選定する上での視点や校名候補３点における「その校名とした理由」や校名候補選定委員会での委員からの主な意見等について、補足説明をお願いしたい。
いじめ・不登校対策課長：校名を選定する上での視点については、生徒や職員が誇りと希望を持てる校名であること、県民に親しまれ、愛される校名であることといった、学びの多様化学校のスクールビジョ

ンである「（３）新中学校について」の内容に合った校名であることである。校名の理由であるが、「鳴門いろどり中学校」は、個性や多様性を大切にし、自分らしく人生を彩る学校という願いを込めた。「潮彩中学校」は、「潮騒」の「騒」を「彩」に変え、子供たちが明るく温かい色を発揮して、人生に彩りを添えてほしいという願いを込めたものである。「こうのとり中学校」は地域に守られながら巣立つコウノトリの姿に、周囲の支援を受けて未来へ羽ばたく生徒の姿を重ね合わせた。委員からの主な意見であるが、よく似た表現や実際に使われている表現についての確認があり、他県の学びの多様化学校では、さいたま市立いろどり学園があること、「潮彩」はひらがな表記ではあるが、グループホームの施設名として使用されていること、「こうのとり」は豊岡市で特急の名前として使用されていることなどを確認した。加えて、委員からは、「いろどり」という言葉は、上勝町をイメージしやすいという意見があった。そのほか、ここに通う子供たちが、胸を張って言える学校名がよいのではないかという意見もあった。

島委員：鳥の名前で「しらさぎ中学校」があるため、「こうのとり」は混同する懸念がある。「潮彩」に関しては当て字であり、間違えて覚える可能性もあるが、イメージとしては悪くない。総合的に考えると「鳴門いろどり中学校」が良いのではないかと考える。

糸井委員：「鳴門いろどり中学校」は、地域名が入ることで親しまれ、日常会話での自然な使われ方が想像できる。また、特定の固定されたイメージがなく、オープンで明るい印象を受ける。「潮彩」は漢字の表記が格好良く、鳴門の渦潮の風景を思い起こさせる。「こうのとり」は地域の支援を受けて育つ物語が素敵だが、固定イメージが強い。「しらさぎ」と「こうのとり」で鳥の名前が揃うのは魅力だが、最終的にはオープンなイメージを持つ「鳴門いろどり中学校」を一番に推す。

横田(恵)委員：どの候補も素晴らしいが、私は「こうのとり」という言葉を聞いた際、以前鳴門で勤めていた時のことを思い出した。地元においてコウノトリは希望の象徴として市民に非常に好意的に捉えられており、県としても良いイメージを発信できる。しらさぎ中学校との関連性を持たせる意味でも、「こうのとり中学校」を推したい。

横田(賢)委員：３つの選定経過を聞き、それぞれに深い意味があることが分かった。「いろどり」という言葉は、どうしても上勝町の「葉っぱビジネス」のイメージが先行するため、あえて「鳴門」を冠したのだろうと感じた。また、「こうのとり」は兵庫県豊岡市のイメージが強く、そちらの方が有名である。「しらさぎ」と「こうのとり」という組み合わせも検討したが、「潮彩」は当て字ではあるものの、鳴門の渦潮や色彩（彩り）の意味を含め、鳴門のブランドイメージとこれから入学してくる生徒たちのことを考えると、最も適切ではないかと考える。

武田委員：私は「潮彩中学校」が良いと考える。理由は他２案への懸念があるためだ。「鳴門いろどり」の「いろどり」は、上勝町のイメージが強すぎる点に加え、「いろどり」という言葉をいい意味ではなく、偏った捉え方をされる可能性があるのではないか。「こうのとり」は県外のイメージが強い点、またコウノトリ米に関連するＮＰＯ法人や、特定の日本酒を思い起こさせる。その点、「潮彩」はダイレクトに「彩り」と捉えられないことや、響きも中学生にふさわしいため、一番良いと考える。

島委員：徳島県外へ発信する際、経済人の視点では「葉っぱビジネス（いろどり）」のイメージは非常に良く捉えられている。しかし、コウノトリは「徳島っぽくない」という意見もある。名前を聞くだけで徳島を想起できるのは、やはり「鳴門いろどり」ではないか。

武田委員：「鳴門いろどり」に「鳴門」がついているのは、上勝町のいろどりのイメージが強いから、「鳴門」をつけたのか。県立中学校でありながら、あえて「鳴門」という特定の地域名を入れる必要があるのかという疑問はある。

横田(賢)委員：選定委員会において、これら３つの候補を選ぶ際の雰囲気やなぜ「鳴門」がついたのかを事務局に確認したい。

いじめ・不登校対策課長：「鳴門」を冠する提案は公募の段階でも複数あった。視点の中にある「地域の特色の反映」を表現するにあたり、ジャンル分けをしたり、学びの多様化学校のイメージを考えたりしながら選定した。選定委員会でも意見が割れたため、段階的に挙手をして、この３案に絞り込んだ。

教育次長：選定委員会で最も大事にした視点は、「子供たちが選ぶとしたらどれが良いか」「生涯使い続ける母校の名称として誇りを持てるか」という点であった。

武田委員：子供たちの目線に立った場合、どのような意見が出されていたか。

教育次長：「格好良い名前が良い」「響きの良いものが良いのではないか」という意見があった。
教育長：その点、「潮彩」は漢字表記も含めて美しく格好良い。
武田委員：響きとしても美しい。
教育長：４文字が言いやすいのではないか。

教育長　　校名を１つに絞るため挙手をお願いする。
各委員　　挙手をする。
教育長　　「潮彩」が３名、「鳴門いろどり」が２名、「こうのとり」は０名となった。
教育長　　新設中学校の校名は「徳島県立潮彩中学校」でよいかを諮る。
各委員　　異議なし。

教育長：決定にあたっての最終的な校名選定理由を確認したい。
いじめ・不登校対策課長：「潮彩」は鳴門をイメージできる言葉であり、多様な学びと一人一人に寄り添う教育理念を体現していると思われる。

教育長　　協議事項１を議案第２４号として付議してよいかを諮る。
各委員　　異議なし。
教育長　　議案第２４号について「徳島県立学びの多様化学校の校名を徳島県立潮彩中学校」と決定してよいかを諮る。
各委員　　異議なし。
教育長　　議案第２４号について「徳島県立学びの多様化学校の校名を徳島県立潮彩中学校」と決定する旨を告げる。

《報告事項３　令和８年度第１回徳島県いじめ問題等対策審議会の議事内容について》

教育長　　報告を求める。
いじめ・不登校対策課長　内容等を報告する。

〈質　疑〉

横田(恵)委員：県内における昨年度のいじめ重大事態の生命・心身・財産に係る１号重大事態が３件あるが、主な要因は精神的苦痛などか。
いじめ・不登校対策課長：個別事案の公表は差し控えるが、教育委員会が把握している

傾向としては、精神的・心理的な部分に起因するものが多いと捉えている。

横田(恵)委員：中学校において、過去５年間で不登校者数が増加しており深刻である。改善に結びついた具体的な施策はあるか。

いじめ・不登校対策課長：不登校になる要因は様々であるが、早期把握は重要である。対策としては、１人１台端末を活用した「ＳＯＳを見逃さない匿名相談アプリ活用事業」や「心の健康観察」を推進し、生徒自身が心の状態を可視化していつでも相談できる体制の充実に取り組んでいる。また、「校内教育支援センター」の設置・促進や、多様な学びの場を含めた支援にも力を入れている。

武田委員：教員が感情を交えず客観的に事実確認を行うノウハウを学ぶための研修はあるか。

いじめ・不登校対策課長：毎年実施している生徒指導担当者等の研修会において警察から少年補導職員を招き、客観的な事実確認のための聴取方法等について講義を受けている。また、スクールロイヤーや児童相談所にも講話を依頼している。計画中のｅラーニング研修の事例検討の中に、この視点を盛り込む予定である。

武田委員：ｅラーニング研修の方向性はある程度、検討しているのか。

いじめ・不登校対策課長：事実確認の進め方などを盛り込んだ事例検討のプログラムを計画中であり、詳細は今後の検討部会でしっかり協議していく。

武田委員：年配の教員などネットいじめの実態が分かりにくい場合がある。現在、どのような形でネットいじめが発生しているか、学校へ情報は提供されているのか。

いじめ・不登校対策課長：ネットパトロールを実施しており、不適切な書き込みやトラブルに該当する事案は、委託業者から教育委員会へ連絡が入り、各学校へ伝えて対応している。また、ＳＯＳを見逃さない匿名相談アプリについても、リスクレベルに応じて学校と情報共有し、早期対応に努めている。

武田委員：今後の学校統廃合の議論において説得力のある数値データとするため、小規模校と中規模校など、学校規模と不登校発生率の相関関係についての調査・分析はしているか。

いじめ・不登校対策課長：現時点で学校規模ごとの正確な人数把握はできていない。現場からは、小規模校ゆえの人間関係の固定化による課題や、逆に中学校進学時の新しい人間関係による悩みなど、双方で

課題が挙げられている。人数的な把握・分析は今後しっかり進めていきたい。

［非公開］

《報告事項１　公益通報の受付・処理状況について（令和８年４月～６月分）》

《報告事項２　服務上の措置の実施状況について》

《議案第２３号　徳島県教育振興審議会委員の任命について》

［閉　会］

教育長　　本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉　会　　午前１１時２９分